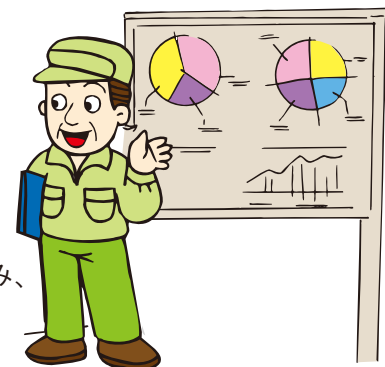
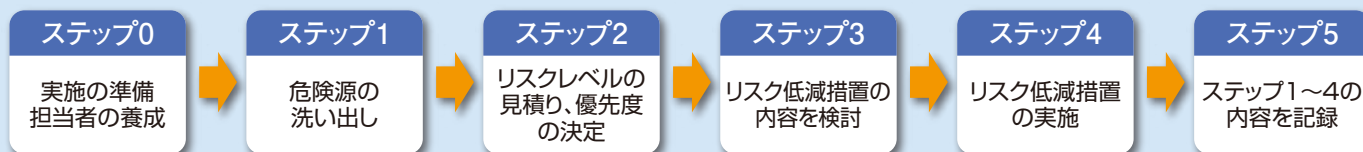


ボイラー・第一種圧力容器を使用する作業の

リスクアセスメントを 実施しましょう



安全衛生法令を守るだけでなく、現実の危険を排除しなければ先に起こりうる労働災害を防ぐことはできません。職場全員の「危険」の感受性で、危険の芽を摘み、労働災害を防ぎましょう。そのためには、リスクアセスメントの実施が効率的、効果的ですから次のステップにしたがってリスクアセスメントを進めましょう。



圧力容器取扱作業でのリスクアセスメント実施事例

● 作業内容

加圧した圧力容器内で高温水により不純物等を洗浄した製品の取出し作業

ステップ1 危険源の洗い出し

- 蓋のロック(安全装置)が故障し外れて高圧の蒸気が噴出する

ステップ2 リスクの評価を行い、速やかにリスク低減措置を講ずる必要があると決定

- 上記の作業は毎日何回もあるので、いずれも災害発生の可能性が高い
- 高温の蒸気や水が噴き出すと重傷災害になる可能性がある

発生頻度…高
重篤度…中

ステップ3 リスク低減措置は工学的措置を優先し、管理的対策、個人用保護具の使用を後順位にする

- A 圧力容器の定期点検を実施し、蓋のロックを有効に稼働するよう整備する …………… ① 実施順
- B 圧力容器の取扱いマニュアルを作成し労働者に遵守させる(開放時の残圧確認) …………… ②

ステップ4 リスク低減措置を実施する

定期点検を実施し蓋のロック(安全装置)が有効に稼働する状態を保持する

蓋を開けるときは圧力を確認

定期点検を実施し、安全弁が有効に稼働する状態を保持する

中の台車自体が高温になっているので取扱いには保護具などを使用する

事故例 残圧がある状態で蓋を開けて、高温の蒸気が噴き出した

● リスクアセスメント実施結果

作 業	リ ス ク	リスクレベル	低減措置	優先順位
圧力容器から製品を取り出す作業	圧力容器から高温の蒸気が噴き出しやけどをする	Ⅳ 重大な問題あり 発生頻度…高 重篤度…中	A	①
			B	②